

株式投資信託を持っている。さらに分散投資をするには、不動産や金にも投資したほうがいい？



こんなトークで
こたえよう



多くのものに分散をすれば必ずリスクが低減するというわけではありません。

不動産や金などの金融資産はオルタナティブと呼びます。オルタナティブの値動きは、株や債券などの伝統的な金融資産の値動きと相関性は低いですが、それを理由に不動産や金などの現物に投資をするのはリスクが高いでしょう。

投資の方針は基本に忠実に考えることが大切です。

お客様の投資に関する知識、投資経験、財産の状況や収入、投資目的、リスク許容度などを踏まえて、どうしたらいいか一緒に考えていきましょう。その結果、やはりオルタナティブへの投資をということでしたら、オルタナティブと値動きが連動する投資信託の活用をおすすめします。

解説

金融資産運用の基本的な投資対象は、伝統的な金融資産である株式や債券に加えて、それらの投資に絡んだ為替だ。また、金融資産運用において分散投資は、投資リスクを軽減するための大原則である。

これら投資対象となる資産（アセット）への分散配分（アロケーション）の結果、出来上がるのがポートフォリオだ。

ポートフォリオを考えるうえで重要なのは、お互いの値動きが異なる資産の組合せだ。いわゆる逆相関もしくは無相関である。

不動産や金などの現物資産は伝統的な金融資産と異なり、オルタナティブと呼ばれ、一般的に伝統的な金融資産との値動きの相関は低くなる。

しかし、だからと言って、やみくもに不動産や金などのオルタナティブへの投資を考えるのは本末転倒だ。基本に忠実に投資の方針

を考えることが大切である。

投資に関する知識、投資経験、財産の状況や収入、投資目的、リスク許容度などを、できるだけ正確に把握（プロファイリング）する。そのうえで、ライフプランに照らした将来的な資金計画と投資額のイメージを掴む必要がある。そこまでたどり着いてようやく、お客様のポートフォリオの検討を始めることができる。

検討には値するが
組み入れても
全体のごく一部

分散をすればリスクが低減するというものではない。不動産や金などのオルタナティブへの投資となればなおさらのことだ。多くの場合、オルタナティブへの投資額は伝統的な金融資産に比べて相対的に小さくなる。

1つの例として、ある大手金融機関がミドルリスク・ミドルリターンとするモデルポートフォリオを見てみよう。